

## 「育ちの場」を提供する

—教育支援ができた・できること—

NPO 法人 教育支援グループ

Ed.ベンチャー



### 【ライオン学校 伊豆合宿！！】

〈へ～んしん、トォ～！〉子どもたちの大好きなヒーローには、いつでも「変身もの」があります。いつの時代でも、男の子も女の子も、変身して強くなることを願っているのかもしれない。8月3日～6日、3泊4日の「ライオン学校 伊豆合宿」では、スタッフたちが目を瞠るほどに成長した姿を子どもたちは見せてくれました。もうそれはほとんど「変身」といった方がぴったりとする様子でした。

万石浦小学校横を6：30に出発。バスで伊豆をめざしての長旅です。お迎え役として前日からサポートセンターに泊まったスタッフは3人。仙台駅で、長崎からかけつけたスタッフの福嶋先生を拾っても4人。バスには子どもたちが17人に、今回のもう一つの大きな目的である「保護者のつながりづくり」のために参加して下さった大人が5人。途中で飽きて、どんなことになるのかととても不安でしたが・・・でも大丈夫。長い、長い道のりを、子どもたちは上手に過ごしたのでした。予定より遅れて6：00に伊豆に到着。この日は夕食と入浴、お泊まり準備で終わりましたが、さっそく子どもたちの元気な声が外にも響いていました。

今回は今までのような「旅行」ではなく、まさしく合宿！大きな貸しペンションの1Fに女の子、2Fに男の子が生活します。個室ではありません。仙台がら付き添った親たちも別のペンションです。食事すべてスタッフの手作りです。豪華な旅行ではないけれど、伊豆のすてきな山と海がひろがっています。思う存分に遊べるはず！2日目には海水浴とスイカ割り、3日目には防波堤からの釣りと、陶芸教室をおこないました。

3月25日に「お別れ会」をやって、いったんはさよならをしたライオン学校でしたが、どうしても子どもたちの様子が気になって、計画的に家庭訪問をおこなって、保護者から様子を聞き取ったり、大学生スタッフがちょくちょくおじゃましたりしてきました。私たちの姿を見かけたら、どうやって情報がまわるのか、自然にみんなが集まってきます。学校や家でうまくいっていないこともあるけれど、それでもみんながんばっている様子に、わたしたちは「おおむね良好」と判断してきました。また、こんな報告もありました。「どうやら普段、ライオン学校の子も同士、学年を越えて遊んでいるようだ」。

5ヶ月ぶりのライオン学校の子もたちはチャレンジ精神が旺盛！海水浴では、浮き輪にしがみついて、グループごとに沖に浮かぶフロートまでがんばります。全員成功。誰も怖がりません。キャーキャー言いながらも楽しそう。フロートからは何回も飛び込んでいました。1回成功すると、浮き輪がなければ泳げないのに、沖のフロートめざしてまた挑戦しようとしみます。そんな姿に、冬のスキー旅行で雪山の頂上から、歯を食いしばって、転げるように降りてきた姿を思い出していました。

スイカ割りも、三日目の釣りや陶芸教室も、みんなで上手に楽しめました。昨年5月、避難所になっていた万石浦中学校で出会ったときに感じた、「荒れ」や「すさんだ」面影は今は全くありません。お互いが相手を暴力的に威嚇したり、排除する言葉を投げつけることもありません。それどころか、きつとうまくいっていないことを抱えながらも、ここでは安心感を持って振る舞っています。ですから、たとえばおねしょをした子がいても、そ



の子は隠すこともなく、周囲がからかうこともありませんでした。

そして、本当にびっくりしたのは、食事と振り返りの時でした。スタッフが目の色変えて40人分の食事を作っている横に男の子がやってきて、「何か手伝うよ・・・」と自然に言うのです。そうしてお手伝いが始まると、その様子を見たほかの子どもたちもやってきます。食事を作っていたスタッフは、お手伝い分担を指揮するのでやがては大忙しでしたが、ととても満足そう。

私たちはライオン学校の支援の中で、「大人に語ることで整理し、次に進む力をつける」ことを大事な取り組みとしてきました。それが「振り返り」です。合宿でも当然のように就寝前に声がかかります。「振り返りやるから、みんなあつまって～！」。振り返りノートをもらって席に着いた後、いつもならペアとなるスタッフの発表です。「え～、〇〇じゃいやだ！」などといって、やっとなり返りが始まるのが今まで。しかし今回は、友だちといっしょにすぐにノートを開いて、友だちと話しながらか、またはひとりごとを言いながら、どんどん進めていってしまうのです。「今日は、書いたら、自分から大人に見せに行ってね」。振り返りのルールが変わった瞬間でした。

子どもたちの劇的な成長(変身?)の裏にあるものの一つは、震災から1年がたち、それぞれの家族がそれぞれの状況なりに、ある程度落ち着いた日常がつくられ始めているからなのだと思います。しかし、その一方では、特に母親の負担感の増大や疲労が、はっきりと始まっています。そのためもあって、「親同士をつなげたい」という気持ちから、今回の保護者の合宿参加となったのです。

もう一つの大きな要因は、やはり今まで続けてきたライオン学校の支援のあり方にあると思われる。ライオン学校としての枠やルールは、厳しくスタッフも含めて確認しながらも、一方では、子どもたち一人ひとりの課題に目を向け、あるときは個別に話をし、あるときは集団の中に位置づけ、あるときは保護者とも話し合いながら取り組んできました。その意味では、ライオン学校は「支援の場」ではなく、はっきりと「育てる場」になって

いたのでしょう。合宿直前の1週間、中一の女の子の生活習慣の立て直しのため、神奈川に呼んで、大学生が生活を共にしたりもしました。「どんなにうまくいなくても、大人は見捨てない。」こうした姿勢が、子どもたちに安心感を与えているのは、まちがいないようです。

〈感謝！！〉 今回の合宿も、本当にたくさんの方の協力があったて実現することができました。まずは、何から何まで手弁当で、忙しい中、「私で良ければ・・・」と言って集まって下さったスタッフのみなさん。お米や食材のほとんどを提供して下さった、福井の家上とめ子さん、長野の清水いく江さん。宿泊の面倒を見て下さった内藤順子さん、武内敏子さん。伊豆で地域興しをされている島川さん。

そして今回、共催事業としてこの合宿を位置づけて、赤い羽根共同募金との仲立ちをして下さった、神戸定住外国人支援センターの金(キム)さんと志岐さんは、わざわざ伊豆まで泊まりがけで応援に来て下さいました。本当にありがとうございました。支援を通して、私たち自身のつながりが、強く、広がっていることに感謝する次第です。



## 【小友中・下福田中・すたんどばいみー交流会】

「支援する側⇔支援される側」という関係性を乗り越えて、次の一步を踏み出すために、これからは「共にこれからの社会を作るパートナー」としての関係を築いてほしい……。そんな思いを込めて、陸前高田市立小友中学校・大和市立下福田中学校・すたんどばいみーの交流会が計画され、準備が進められています。どんなに遠くても、子どもたちを中心とした活動にするため、7月25日には、下福田中学校の準備委員3名と、すたんどばいみーの2名が、実際に小友中学校3年生14名の教室を訪れ、自己紹介に続いて、正式に神奈川へのご招待を伝えました。その後、交流会の内容についての話し合いがもたれました。はじめは緊張していたものの、話し合いの後では和気あいあいと止まることのない雑談が続き、担任の先生が打ち切りを宣言するに至ったほどでした。



下福田中学校の生徒は、陸前高田を訪れるのが初めてであったため、訪問に先立ち、市内の被災の状況を見て回りました。また、小友中学校の加藤校長先生は、被災した立ち入り禁止の校舎を特別に案内してくださり、一行に当時の津波の様子をお話しくださしました。

小友中の訪問を終えての中学生の感想は、「写真や映像だけではやはり本当のところは伝わってこない。1年たってもまだこんなだなんて信じられない。」「小友中の3年生が、とっても明るく元気だったのが印象的だった。」と語っていました。

教室訪問での招待の挨拶では、「アンケートを採ったら、多くの人にとってはまだ他人事のようにしかとらえられていないと思います。でも、交流会を通して、私たちも責任を持って考えられるようにしていきたい」と話した下福田中学校の3年生。小友中・下福田中・すたんどばいみーの三者がすばらしい出会いをしていくことを祈りたいと思います。また、特に、多くの級友や家族を失った小友中学校の3年生たちが、最後の卒業生として小友中を巣立つその日まで（来年度より、他の中学校2校との統合が決定している）、経験を少しでも力に変えていってほしいと願っています。

今、小友中の3年生たちは、29日に訪れる鎌倉のどこを見学するか、みんなで議論中とのこと！



交流会の詳しい内容は以下の通り。

- 8月29日(水) 小友中学校、新幹線で東京へ  
鎌倉見学後、江ノ島へ宿泊
- 8月30日(木) 小友中・下福中・ばいみー三者交流会  
10:00～12:30 於 下福田中体育館  
夕食会 18:00～19:00 於 下福田中中庭  
(子どもたちはその後ホームステイ)  
加藤清校長先生講演会  
「震災後、学校教育が果たした役割」  
19:15～20:30 於 下福田中視聴覚室
- 8月31日(金) お別れ会 9:00～9:30 下福田中体育館  
小友中学校 新幹線で一関へ

※Ed.ベンチャーのメンバーが、小友中学校に随行します。  
※交流にかかる費用はEd.ベンチャーが負担すると共に、下福田中学校PTAや地域の方々、大和市の協力を得て取り組んでいます。

※交流会や講演会参観希望は、Ed.ベンチャー事務局か、下福田中学校（柿本）までメールで連絡ください。

(Ed.ベンチャー事務局 toiwase@edventure.jp 柿本 kakimotogeronimo315@gmail.com)

〈別の意味〉今回計画されている交流会は、教育的な意味合いと共に、もう一つ別の意味を持っています。それは、NPOが資金と人的な資源を提供して、教育活動を大きく展開していくという側面です。予算や年間の教育課程に縛られがちな教育現場に、大きな可能性を持った支援を直接展開するという事です。政治主導で教育の独立性も危うい状況が日本の各地で見られる中、子どもたちが必要とするものを、現場の教員と共に考え、形にしていく手作りの営みを展開することが、そうした流れに現場から対抗する術なのではないかと考えています。



【後20万円!!】8月29日～31日、陸前高田市の被災学校の一つである小友中学校を大和市に招待して行われる「下福田中学校・すたんどばいみー・小友中学校の交流会」へご寄付いただきまして、ありがとうございます。半月ほどの間に多くのみなさまからのご支援をいただきまして、寄付額が80万円に達しました。目標額まで残り20万円となっておりますので、ご協力よろしくお祈りします。

8月3日「シミズウララ」で振込いただきました方、連絡先をお伺いしたいと存じます。事務局までご一報ください。

## 【支援隊活動記録】

■万石浦子ども支援 ○8月2～6日(第24回)：ライオン学校伊豆合宿  
□支援隊メンバー：柿本隆夫(下福田中学校)、松永雅文(引地台中学校)、家上幸子(Ed.ベンチャー事務局長)、清水睦美(東京理科大学)、福島良彦(長崎県大村中学校)、小沼慶多(つきみ野中学校)、高柳恭介(引地台中学校)、内藤順子・下新原なつみ・吉間里依(大野原小学校)、今井美里・甘利悠希・大林沙紀(東京理科大学学生)、保坂克洋(立教大学院生)、藤原弘輝(光明相模原高校1年生)、武内敏子(Ed.ベンチャー)

■陸前高田支援 ○7月23～25日(第44回)：教育支援チーム「まつ」理事会参加・下福田中学校・すたんどばいみーの小友中学校訪問付き添い □支援隊メンバー：家上幸子(Ed.ベンチャー事務局長)、清水睦美(東京理科大学)、□訪問メンバー：石井鈴華・川合麻友・星山翔平(下福田中学校3年生)、柿本隆夫・木代傑・渋谷明子・山内卓(下福田中学校教員)、チューブサラーン・宮脇アンディ(すたんどばいみー)

■寄付(6月29日～7月26日)小林西子(東京理科大学)、皆川イツ子

※交流会に関わる寄付は、交流会報告にて別にお知らせさせていただきます。

★★継続的な支援のために、寄付を募っております。ご協力をお願いします★★

横浜銀行 中央林間支店 普通6018180

Ed.ベンチャー東日本大震災支援 (Edベンチャーヒガシニホンダイシンサイシエン)

NPO法人教育支援グループ Ed.ベンチャー

〒242-0007 大和市中央林間3-16-12-107

Tel/Fax:046-272-8980 e-mail: toiwase@edventure.jp

